

都市交流

「ふるさとの思い出」

舟橋市(植松出身) 小笠原 恵行

小学生の頃、ある夏の盛りに数人で大江高山に登ったことがあります。

リーダーはよく覚えていませんが、先輩の市原つかささんか、亡くなられた山根篤さんか？(覚えている方があったら教えて下さい)。毛布と蚊帳と食料を分担して背負って登りました。頂上は一面に雑木の密林になっていて、期待した展望は得られませんでしたが私にとつては、貴重な体験となりました。

大田中学の頃、全校生で三瓶山へ夜行軍をしたことがあります。朝の三瓶山からの眺めは素晴しく、そのとき一連の山塊が眼に入りました。それは意外に近く、青黒い大きな山々の塊の中心に立つ大江高山の雄姿でした。私は級友に誇らしくそれを教えたのでし

た。

昭和十八年入隊のとき、「歓呼の声に送られて」村境の坂道を上ったところで、これが高山との別れとなるかもしれなかと振り返って眺めた記憶もよみがえって来ます。

生きて帰って来られて、ほんとうによかったなと、これを書きながら、またまた思い出出す次第です。

文化の日にちなんで

運営委員 横手 昌 則

「文化」・難しいテーマだ。文化的とか、文化人なんて言うとは何となくヒョロヒョロとしたひ弱なイメージがしてあまり好きではない。少々、野蛮な方が人間味があつて好きである。

野生にある物を、そのまま手づかみで食す人達をつかまえて、いわゆる文化人は「野蛮人」と軽蔑する。そして発展途上国の人々を馬鹿にする。文化水準が低いから人間的に劣っていると決めつける。

「文化」を辞書で引くと(人間が向上しようとして作り出した物心両面の成果)とある。

「物心両面の成果」

現在の日本は物が余つて困るくらいで、それほど生活に不便さは感じない。そのことは、総理府が今月二日に発表した「国民生活に関する世論調査」で六八・二%の人が、今の生活に満足と答えていることから言えると思う。にもかかわらず犯罪が一向に減る気配をも見せないのは何故か？ それは、心が貧しいからだ。お金や物、地位、名声だけで真の幸福は得られない。

いつかテレビで見たアフリカのブッシュマン(狩猟民)の家族が獲物を手にして笑っている顔が急に浮かんできた。
(大代青年団「きんさい新聞」同人)

町民体育大会

青年団長 松井 圭三

自分の醜態をさらす様ですが、学校の頃から走る事に関しては絶対に勝った事がない自分です。すべての運動はまず走り始める事からだ……、私にはとても、あてはまりそうにありません。

大代の方は御存知ですが、小学校の

既に未だといふのがあつて、それをどうにか休んでやろうと、ない頭を働かせて考えたものです。

そして理由がなくなつた時、とうとうその持久走に出場したのです。走り出す前に、一番親しい友人Aに「マイペースでゆっくり走ろう」と言う言葉を繰り返して、見える姿は背中だけ。

走りながら思いました。友情というのは、こうしてこわれていくものだと。そしていつか自分も、Aと同じことをしてやろうと思ひ毎日走り続けました。三日間……。

でも運動会というのは、いつ出てもいいものです。おおげさに言えば、その日だけ何か違つた町の様に思えるからです。

大代つていう町は、若い人の活気が足りないと思ひます。もちろん自分もそんなんですが……。もっと自分を外へ出したらいんじゃないですか？

秋の火災予防週間

副分団長 森 忠 利
皆様、平素より消防団活動に大変御

協力頂き、厚く御礼申し上げます。秋の全国火災予防週間が十一月二十

六日から行われます。火災の恐ろしい事は皆様良く御存知の事と思ひます。予防週間を機会に、暖房器具や風呂

の煙突等安全かどうか、今一度点検して頂くようお願い致します。これから

年末にかけてだんだん寒くなり、火を取扱う事が多くなります。空気は乾燥し風は強く、火災が起こり易い季節に入ります。外出する時、おやすみ前には必ず今一度、火元の安全を点検して頂く様お願い致します。

火気を取扱う時は、一人一人気を付け、お互いが声を掛け合い、火災予防に皆様こそつて御協力をお願い致します。

秋祭り



上市 山 根 美佐子

心豊かに収穫の喜びを分かち合う秋祭りも生活環境、家族構成、毎日が、祭りの食生活の変化等で、各家共、かなりお客様の往来があつた様ですが、近年ではそれも少なくなりました。

人出で一ぱいのかつてのあの賑やかさは嘘の様です。母から娘へと伝える

秀しのオモてたし米理も信身になつて

いる事でしよう。私の家でも必ず祭料理の一品として焼松茸に土瓶蒸し、柚子の香りで食べたあの味は忘れられせん。

今では遠い昔のお話です。お客様から戴いたお小使いで、先ず大崎さんの前で店を張つて呼び声の元気な渡利さんから今で云う回転焼を買ひ、水飴を銅板に流して少し待つ内に動物の形となつて飴板の出来上がり。町渡さんの前で空くじを何回も何回も……。夕方迄出たり入つたりして楽しんだ祭りの日の思い出は鮮やかです。

今も昔も変わらないのは、樹令三百年を数える鎮守の森の杉木立と、お年をお召しになつても姿勢のいい宮司様の立居振舞。昨年奥様がお亡くなりになつてからも、朝な夕なのおつとめ、雨の日も、風の日も、雪の降る寒い朝もあの森から聞えて来る太鼓の音は時計の如く正確に、時を知る私達です。

お祭の御神輿には必ず神代の昔の装いで行列に加わるおせんおばさんの姿、イーちゃん何時も祭には紙で作つたお金を戴いた。幼い日に出逢つた忘れられない思い出の人です。